



# 飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

## インスピレーションになろう

RI会長 バリー・ラシン

2570地区ガバナー 茂木 正

第3グループ  
ガバナー補佐 細淵 克則

「想いを繋ぎ 地域と国の発展に奉仕する」

### 第2830例会 2018.11.14

—— 経済と地域社会の発展月間 ——

天候 晴 (NO. 55-20)

会長 島田秀和 幹事 馬場正春

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 小川君、大野(康)君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎ (042) 975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎ (042) 974-3111(代) FAX (042) 973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 島田会長
- ・ソング 我等の生業 四つのテスト
- ・卓話 石井道夫会員

#### 【会長報告】

先週、幹事と、前日に退院されたばかりの大木会員のお見舞いに参りました。お元気そうで安心しました。齋藤先生の所にも伺い奥様とお話しました。本日のパスト会長会議の議題は「ガバナー選出」。何年か後にはガバナーを輩出出来るクラブにならないかと思っております。

#### 【幹事報告】

第4回理事会議事録を配付。21(水)事務局の引っ越し。神田(敬)、吉澤、中山、五十嵐、矢島(高)会員と会長幹事で、東電と「ハリカ」さん倉庫に荷物を運びます。よろしくお願ひ致します。新入会員名を配付。大野様は新井(康)会員、都築様は吉澤会員のご紹介です。

#### 【委員会報告】

◎親睦活動委員会 中山君  
12/19クリスマス家族会は素敵なテノール歌手の歌と美味しいお食事、プレゼントをご用意。参加申込12/5まで。よろしくお願ひします。  
◎会葬の御礼 吉田(行)君  
母の葬儀の折にはご会葬、ご芳志を頂き有難うございました。

【出席報告】 無届欠席0 細田(伴)出席向上委員

会員数		当日		前々回修正 出席率
全数	対象	出席数	出席率	
59名	6名	48名	81.36%	81.36%

#### 【M U】

11/6 (入間南) 半田君  
11/8 (所沢東) 半田君

#### 【結婚・誕生日祝】

新井(康)親睦活動委員

- ◇入会記念日おめでとう  
山川君、吉島君、田中君
- ◇結婚記念日おめでとう  
伊澤君、田辺君、新井(景)君、和泉君、橋本君  
島田君、土屋(崇)君、細田(尚)君、細田(伴)君  
安藤君、本橋君、沢辺君
- ◇会員誕生日おめでとう  
14 大崎君、18 吉田(武)君
- ◇夫人誕生日おめでとう  
5 細田(伴)夫人、9 服部夫人、11 馬場夫人  
14 新井(景)夫人、15 平沼夫人、田辺夫人  
20 齋藤夫人、24 大附夫人

#### 【SAA報告】

##### ◎ニコニコBOX

- ・石井先生、本日は卓話よろしくお願ひ致します。  
山川君、増島君、間邊君、土屋(崇)君
  - ・入会記念日お祝ひ有難うございます。  
山川君、吉島君、田中君
  - ・結婚記念日お祝ひ有難うございます。 細田(伴)君  
新井(景)君、細田(尚)君、安藤君、沢辺君  
島田君、土屋(崇)君、吉澤君、本橋君、伊澤君
  - ・誕生日お祝ひ有難うございます。 大崎君
  - ・妻の誕生日お祝ひ有難うございます。 田辺君  
大附君、服部君、馬場君、細田(伴)君、新井(景)君
  - ・高3砲丸娘U20日本選手権優勝、U20オリンピック育成選手に選ばれました。 大野(康)君
  - ・早退します。 小川君、大野(康)君
- 本日計90,000円、371,001円。  
◎28日例会当番は大崎、大野(康)会員です。

#### 【卓話】

講師紹介 山川ロータリー財団委員長  
細淵補佐がたっぶり財団の話をされたので、本日は、お金も大事だが健康も大事という事で石井先生

お願いしました。地域に密着した医療で、誰からも愛され信頼され代々地域の生命を守る「石井外科胃腸科医院」院長。埼玉県産業医会会長、埼玉県医師会代議員会副議長、埼玉医大監事、(元)飯能地区医師会会長をされております。

## 産業医について

石井外科胃腸科医院 院長  
飯能RC 石井道夫 会員

50人以上の事業所には産業医が必要なのですが、問題になっているのは90%超の、50人未満の事業所の方です。日本の技術は本を正せば家内企業が支えているようなもので、砲丸投げの球もおじいさんが一人で作っています。テングスより細い、痛くない注射針も、2、3人の町工場が開発したものです。大事にしなくちゃいけないのは小企業なのです。

従業員の健康を考えるなら皆さんが毎日従業員の顔色とかを見る事です。例会へ来ると私はまず全体を見ます。「今日は誰と誰が顔色悪い」それをインプットしておいて3週間顔色が悪ければそっとその人に近づいて「具合悪いんじゃない？」と聞く。「分かる？」「分かるよ、その顔色は」「じゃあ診てもらいに行ってくる。すると白血病だったりするのです。従業員は「宝」です。それを無くしては大変ですからまずは長がよく見て早目にアドバイスを。そうすれば病気なんか悪くならないうちに見つけられるのです。今の医者、特に大学病院なんかは忙しいから、顔色とか態度とか胸とか見られず、すぐCTとかMRIとかになる。普段の生活の中で患者を観察するというのは非常に大事な事だと思うのです。私なんか古い医者ですから「触り魔」だと思われるかもしれないけれども、胸やお腹を見せてもらったり、首を触ったりします。従業員の健康管理という事では、普段から周りの人が見ていれば、ある程度早目に分かります。経営者として是非やって頂きたいですね。働く環境を良くしてやるように我々は行動するわけです。「溶剤の臭いに気を付ける」とか、従業員自身が健康に目を向けるようにしていく。会社をただ回って見ているだけじゃなくて、そういう事を頭に入れながら従業員を見て頂きたいのです。

もう一つ、今、産業医をやっている気付くのは若い人と年寄りとのギャップ。年寄りの言う事を若い人はあまり聞かないでしょ。知識の基礎は20代半ば頃から備わっていくのですが、経験しながらその時代に合ったように考え方を変えていかないと古くなってしまふ。典型的なのはこの間の体操コーチの問題。経験してきた知識は大事だけれども、現場に合わせて変革していかないと若い人達が付いて来てくれないと思うのです。そこを意識してやって欲しいですね。警察も軍隊組織で育ってきてしまっていて、係長、課長は命令調。下のやつらはそれが嫌いで合わないんです。交番で上司が撃たれる事件がありました。調べた結果パワハラは無かったとありましたが、古い人達が調べたらそういう事に気付かないのです。だけどやった方からしてみればパワハラなんですよ。何年か前にも若い警官が2人ピストル自殺していますがそれもパワハラです。ですからそういう意識をもって下の人達に接するようにして、自分の経験も大事だが時代に合ったようなかたちに変えるようにしてもらいたいと思うんですね。誘っても若い人達は飲みに行きません。そういう時は「若い人達の考え方が分からないから今日は悪いけど一緒に飲みに行ってみて教えてくれる？」って言って頭を下げればいいんです。低く頭を垂れて飲みに行く。支払いも「オレが払うから」とか言っちゃダメなんです。「皆さんにいろいろ



教えて頂いて授業を受けたので今日はオレに払わせてくれ」。そうすれば気持ちよく払わせてくれるのです。それでコミュニケーションが出来るんですよ。若い人の前で威張っちゃうのが良くないみたいですね。

今は事業所内ですごく分かれてしまっていて、それがストレスになってメンタル的におかしくなる若い連中が結構多い。緊張感が続いたりするとメンタル的におかしくなるので、その緩和という事が、大きな事業所等では問題になっています。ある会社では、自転車漕ぎやクライミングの出来る設備のために投資した額を1としたら効果が3あったと言うのです。仕事の能率が上がり、皆が運動するので病気にならず、健康保険に払うお金が少なくなったという事だそうです。運動は気分転換にもすごく良い。何か皆さんのところでやっておられますか？ 5分か10分で良いのです。是非入れてもらおうと思つてくると思います。犬山の日本モンキーセンター所長は、自宅から2キロの職場まで毎日往復走っているのだそうです。「走っているとすごいアイデアが出て来る」というのです。

「時間が無い、時間が無い」と言いますが、警察でも一字一句PCに入力するのではなく、例えば現場で捜査する時、重要な事だけ入力して、あとは頭の中に入れておくとかすれば、現場へ行った時にパッと「この間と同じだ」「違う」というのが反射的に出て来る。PCに入れちゃうと安心して出て来ないわけです。頭の中に入れておくのが一番大事。PCのやり過ぎで脳が委縮している人が多いのだそうです。PCは利用する物のはずがPCに利用されちゃっているんですね。是非皆さんも要領良く使って欲しいのです。文字にしても、何だか分からないような字を書く人が今は多いですが、自分のためではなく、他人に伝えるために書くのだからしっかりと分かる字を書いてもらいたい。医者を書く字もぐじゅぐじゅして分からないのが多いんです。ラブレター書いたでしょ。それが文章や字を上手くするんです。人間なんだから「機械に頼らない」という事は是非やって欲しいですね。産業界の現場へ行くと機械に慣れてしまっていて、人間的じゃなくて機械的な考え方になっている人が多いですね。アナログに戻して、機械は最低限にして欲しいと思うのです。

労働災害は仕事の始めか終わり、気が緩んだ時に起こります。終わるまで緊張を解かないよう言って欲しいですね。産業医としての経験をお話します。母一人子一人で育ち、中学を卒業して九州から東京に出て来たその日に、片付けようとした電動ノコギリが腹に入ってしまった青年を、小柄な棟梁が後ろで掴まえてノコも持って戸板で連れて来たのです。すぐに大腸を繋ぐ手術をしたので助かりました。棟梁は「このノコは守り神として神棚に置いておきます」と言っていました。もう1つは自慢話みたいになるのですが、早朝、ヤクルト配達的女性が若い男に理由も無く刺されたのです。心臓手術はその時が初めて。覚悟を決め麻酔をかけて切って肋骨を上げたらパッと血が吹いて来た。パッと反射的に手を当てたら小さくなった心臓の、切れてるところに指がはまったのです。「止まった！何でもいからよこせ」と言って3針ばつぱつと縫ったら止まって、それで助かったのです。手術が終わって朝、待合室の椅子に可愛い女の子が2人ぼつんと座ってるの。その光景は頭から離れません。これも労災。犯人は未だ分かりません。とにかく、日々の生活の中でもそういう事があると、いう事を頭に入れてやって欲しいと思います。